

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・千葉・能登・平林・合川^c・鈴木^c・吉田^c・大塚^{c,d}
(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 今後のIAEAの会議はCenter Head MeetingとTechnical Meetingを合わせた形で行い、センター毎の出席人数を制限しないこととなった。(加藤)
- 来年度より大型計算機センターのデータベース委員が加藤から大西に変わる。(加藤)
- 大計センターのU10031の中身をCD-Rに記録した。利用希望者は吉田まで。(加藤)
- D248についてOECD/NEAから問い合わせがあった。OECD/NEAではこの論文を我々の採録とほぼ同じデータ量で既にEXFOR形式でコーディングしている。JCPRGで読み取ったデータの幾つかは定性的に問題があり、再読み取りが必要である。(加藤)
- 今年度収録件数は24編を予定。内15編はコーディング終了。残り9編のうち2-3本以外はコーディング作業に入っている。(吉田)
- NRDFの問題のあるコードをリストアップし、個別検討を進めている。(能登・大塚)
- 東北大中村研よりThick Target Yieldに関する論文数本の数値データを頂いた。この中には日本原子力学会の欧文誌Nuclear Science and Technologyのものも含まれている。今後この雑誌も採録対象としてはどうか?(大塚)

3:議論

- D1736 コーディング結果検討
2種の厚さの標的を用いている場合には(XMG/CM2, YMG/CM2)の形でコーディングする。
- D1747 コーディング結果検討
表題と本文中標的核の核種が違う。著者に問い合わせる。
3BANBAN:展開形の”Bangla Desh”は”Bangladesh”の間違い。OECDに連絡。
2JPNKYU:展開形から”Dept.of.Nucl.Eng.”を外す。EXFORも修正。
2JPNTKS/2JPNKIT:EXFORにある徳島大・産業医科大をNRDFのコードにも追加。
- 年次報告: 題目(ページ数)と原稿締切
巻頭言(1)/IAEA会議報告(4)/辞書WG報告(4)/データ動向(5)/エディタ(15)/評価システム(4)/国際シンポ原稿(10)/採録実績(6)/議事録(10)。

4:次回

2002年4月8日 17:30より